

農業市場学研究室案内 2015年前期

2015/04/28

1 教員の講義担当

	氏名	講義名	対象学年
教授	野見山敏雄	生産学原論(分担) 生業市場学(分担) 農現代農業学(分担) 食農マケテイング論	1年(前期) 3年(前期) 3年(後期) 修士1年(前期)
助教	成田 拓未	農業経営学(分担) 農村社会学(分担) 食料代業論(分担) 食料関連産業特論(分担)	3年(前期) 3年(後期) 3年(後期) 2年(後期) 3年(後期) 修士1年(前期)

2 教員および院生・学生の研究テーマ

教授	野見山敏雄	1,産地の市場対応と産地形成 2,産直流通の展開課題	
助教	成田 拓未	1,東アジア市場と日本の果樹農業 2,中国における農民專業合作社	
博士課程	趙 哲	農産物直売所における安全・安心の確保に関する研究	
修士課程 2年生	石川 諒 榑原衣久枝 ブイ・ハオ・オン 安井 拓哉	地域連携による大豆の生産振興に関する研究 農業法人への新規就農の現状と今後の可能性について 日本の農水産物輸出に関する研究－対ベトナムを中心に－ 加工・業務用野菜の生産及び取引拡大に関する研究	
1年生	ユ・ヒョジュン 加藤百合子 黒澤麻利江	日本におけるCSAの定着条件に関する研究 飼料用米に関する研究 地域流通と広域流通	
研究生	其力格尔 彭 鏡儒	農産物価格と物流に関する研究 (2015.7.1来日予定)	
4年生	河村 泉 寺田 賢吾 野田 健斗 廣部 渉	グリーンツーリズム* 国産小麦の流通* 食料自給率と自給力* 米の生産と流通*	* 関心事項

3 学部卒業生および大学院修了生の進路 (末尾の数字は卒業・修了年度)

学部卒業生	大学院修士課程修了生
<ul style="list-style-type: none"> ・(株)極洋-14 ・経済産業省-14 ・三井化学アグロ(株)-14 ・本学大学院農学研究科-13×2,12×2,09 ・日本貿易振興機構(JETRO)-12 ・農林水産省-09 ・赤城乳業(株)-09 ・(株)三幸食品-09 ・中国留学(中国人民大学)-08 ・(株)味の素-08 ・(株)モンテローザ-08 ・厚生労働省-07 ・(株)いなげや-07 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学大学院連合農学研究科-14,09,03,98,97 ・日本生活協同組合連合会-14 ・(株)ロイヤリティマーケティング-14 ・(株)コスモネット-13 ・(株)グレイス-12 ・月島食品工業(株)-11 ・韓国・農村振興庁-10 ・(株)ディー・エル・イー-10 ・(社)全国農業共済協会-07 ・新日鉄ソリューション-06 ・JA全農-05 ・(株)上昇-05 ・(株)花弘-04

4 最近の卒論及び修論のテーマ (・=卒論,◇=修論)

- ・地産地消の学校給食における地場農産物供給コーディネータの役割と課題-14
- ・薪の生産・販売動向と今後の展望-14
- ・食品安全における食品防御の必要性-14
- ・地域連携による大豆作の生産振興に関する研究-13
- ・非農家出身者の新規就農における農業法人の役割について-13
- ・国内産小麦の需給動向に関する研究－需要拡大の課題－12
- ・日本産農林水産物・食品の輸出に関する研究－根室産サマのベトナム向け輸出を事例として－12
- ・エコフィードの現状と課題－飼料化事業から考察した今後の食品リサイクルの展望－12
- ・食品企業における食育のあり方に関する研究-09
- ・生協産直の現段階と果たすべき役割-09
- ・都市農業・農地存続のための自治体の役割－農のあるまちづくりを事例に－09
- ◇国内産小麦における需給ミスマッチの現状と課題-14
- ◇地方自治体主導による家庭系生ごみリサイクル事業の特徴とごみ処理体系の解明-14
- ◇農産物直売所における食品の安全・安心性の確保に関する研究-14
- ◇生協産直の物流に関する研究-13
- ◇日本ワインの対中国輸出に関する研究-13
- ◇牛肉流通における安全安心に関する研究-13
- ◇日本産りんごの対東アジア輸出に関する研究－台湾・中国を中心に－13
- ◇生活型農産物直売所の意義と今後の可能性に関する研究－12
- ◇日本における有機農産物流通の一形態としてのオーガニック・ファーマーズマーケットの現状と課題－12
- ◇生協産直における農産物の価格形成と需給調整に関する研究－共同購入事業を中心として－11
- ◇日本の食品産業界におけるハラル展開の可能性と課題に関する研究-11
- ◇学校給食における地産地消の可能性と限界に関する研究－都市地域を中心に－10